

1 基本情報

施策名	2 - 3 みどりがつながるまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト			
担当	主担当部	環境建設部	主担当課	環境課					
	部長名	小林 茂輝	関係課						

2 取組目標(Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ●白井市の豊かな暮らしを支える重要な要素である水とみどりの環境の大切さを市民一人一人が認識し、その保全と継承に向けた取り組みを展開します。 ●森や河川、田園など市街地の外側に広がるみどりと市街地内の緑地や樹木などのみどりがチェーンのようにつながり、みどりが持つ暮らしを豊かにする多様な可能性を活かします。
目標実現に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ●自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用 市民や市民団体等と協働し、(仮称)谷田・清戸市民の森など、里山を積極的に保全・活用します。 ●市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援 市民や市民団体等が自ら、道路沿いなどの身近なみどりを育て、みどりのネットワークをつくる活動を進めます。

3 取組状況(Do①)

H28年度 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ●自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用 ・整備区域決定に向け、地元代表者と意見交換を行い、より具体的な検討を行うため、市有地周辺の地権者にアンケート調査を実施し、地権者の意向を概ね把握した。 ●市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援 ・沿道の緑を増やすため、植栽活動を行う団体が草花等の購入に要した経費の一部を補助した。 	
改善意見 取組状況	前年度改善意見	改善意見への取組状況

4 構成事業(Do②)

No	コード	事業名	H28事業費	うち一般財源	評価	改善事項
1	2-3-1-01	(仮称)谷田・清戸市民の森整備事業	224	224	改善して継続	地権者との協議状況を踏まえた整備スケジュールの見直し
2	2-3-2-01	沿道みどりの推進事業	347	347	現状のまま継続	
合計			571	571		

5 1次評価 (Check①&Action①)

	施策指標名	単位	基準値/基準年度		目標値		実績値			
					H32年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
定量的評価	白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合	%	-	-	72.1	72.1				
	身近に自然を感じるお気に入りの場がある市民の割合	%	-	-	85.3	85.3				
定性的評価	整備区域の決定に向け、地元代表者と意見交換を実施したほか、関係地権者にアンケート調査を実施し地権者の意向を概ね把握したが、整備区域の決定には至らなかった。スケジュール的には当初より遅れる見込みとなった。また、市民による緑のネットワークづくり支援は花苗等の配付から購入経費の一部補助としたことから、当初の想定より申請者が減少したため、補助申請・実績報告の簡素化を行い次年度に向けた改善ができた。						進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> おおむね順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている		
課題	喫緊の課題			中長期的な課題						
	整備区域について、地元代表者等と協議し、合意形成を図りながら選定を進める必要がある。道路沿いなどの身近な緑が増え、緑のネットワークを形成できるよう植栽活動を行う団体を増やす必要がある。			整備区域決定後、整備、保全のありかた、維持管理方法等が決定していないため地元、市民活動団体等と協働で検討を行う必要がある。						
施策の方向性 (改善策)	短期的な方向性			中長期的な方向性						
	整備区域について、地元代表者と協議しながら、地権者の意向確認を踏まえ、整備範囲の選定を進める。啓発活動などを通じ植栽活動を行う団体を増やし、連携を進める。			整備方法、保全のあり方、維持管理方法などについて地元、市民活動団体等と協働で検討を進める。						
施策を取り巻く環境の変化	ニュータウン開発等急激な都市化が進行した中で、ニュータウン区域から除外された谷田・清戸地区の県有地が貴重な里山として保全され、千葉県との協力により緑地の保全を目的に市に譲渡された。平成27年度まで、ごみのポイ捨て防止、きれいなまちづくりと潤いのある快適な生活環境の実現を目的に年2回植栽活動を行う団体に花苗等の配付による「花いっぱい運動」を継続してきたが、時期が限定されるなど課題があり見直しを求められた。自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全や活用、みどりによる癒しの空間を広げ、ウォーキングや散策等の活用が求められている。									
市民と行政の役割分担・協働	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大 (仮称) 谷田清戸市民の森の整備主体は市であるが、管理・運営等については、地元市民や市民活動団体と協働で取り組む。 治道みどりの推進は、市民が主体となって植栽と管理に取り組み、行政はそれを支援する。									

6 2次評価 (Check②&Action②) 白井市行政評価委員会による評価

改善意見等	土地所有者の理解を得ながら、環境保全の意識啓発に取り組むこと。
-------	---------------------------------

7 3次評価 (Check③&Action③) 総合計画審議会による評価

改善意見等	
-------	--

8 2次・3次評価における意見等への対応方針

対応方針	
------	--